

平成18年度川崎区区民会議 第1回子育て部会会議録

日 時 平成18年11月17日(金)午後6時30分  
場 所 川崎区役所7階会議室

出席委員：9名(敬称略)

須山令子、吉邨泰弘、古川博子、原田歩、藍原晃、田辺富夫、魚津利興、朴栄子、荒井敬八、

関係者：1名(敬称略)

大浦正彦(川中島中学校区地域教育会議議長)

傍聴：1名

議題及び公開・非公開

- (1) 具体的な取り組みについて
- (2) その他

#### 1 開 会

事務局(会議公開及び写真撮影の説明、傍聴時の注意事項説明、出席委員確認、事務局職員紹介など)

#### 2 部会長あいさつ

部会長 最近子どもが被害者となった痛ましい事件の報道をよく目にする。そんな社会情勢の中、子育て支援部会が正式に発足し、今日第1回目を開催する。これまでの各部会員の意見を踏まえて具体的な取り組み検討し、第3回区民会議に報告したいと考えている。

#### 3 連絡事項

事務局(本日の議題及びタイムスケジュール説明、配布資料確認)

#### 4 議 題

- (1) 具体的な取り組み内容について

部会長 11月6日に幹事会を開催した。その際に、これまで出された意見に対し、行政が取り組む課題は要望していくこととし、子育て支援部会では安全・安心に絞って具体

的取り組みを検討することが決まった。

今日は後ほど、具体的取り組みの参考とするため、関係者（川中島中学校区地域教育会議議長）に地域での取り組み事例の発表をしてもらう。

第1回区民会議で、川崎区こども総合支援ネットワーク会議の事例が挙げだったので、委員に報告してもらう。

委員 これまでは、小学校、こども文化センターなどの施設間で情報が伝わっていなかったため、川崎区こども総合支援ネットワーク会議は施設間の迅速な情報伝達を目的としている。

先日の女子中学生がハサミで切りつけられた事件が発生したときも、すぐに子ども安全確保部会が開催された。

事務局 地域緊急情報連絡網を平成17年10月に整備し、区内の施設間で速やかに情報が伝わるようにした。これまでは通報を受けた施設から所管局の部署、他局の部署を経由し、他局の施設に伝わっていた。例えば、小学校に不審者などの情報が入ったら、教育委員会から市民局を経由し、こども文化センターに情報を伝えていた。

地域緊急情報連絡網で発信した不審者などの情報を月別、種類別に集計している。

こども総合支援ネットワーク会議子どもの安全確保部会は7月31日（金）に第1回、10月13日（金）に第2回が開催された。第1回では、地域の取り組み事例を紹介し、意見交換する中で、今後各地区でさまざまな取り組みを試みていくことが重要であると確認した。第2回では地域での速やかな対応のためには、速やかな情報伝達が重要であると確認した。

委員 地域緊急情報連絡網で発信した不審者などの情報は、発生した場所や時間帯などの情報も伝わっているのか。詳しい情報があった方が対策を検討しやすい。

事務局 場所、時間帯など詳細な情報も把握している。ただ、あまり特徴的な傾向は見受けられない。

安全マップなどを作成している地域もあるが、不審者などの発生場所の情報を掲載するよりも、死角になりやすい場所を掲載する方が有効である。

今回の資料は、区内での発生件数を把握する目的だったため、詳細な情報を記載していないが、必要ならば提供する。

委員 子どもに対する事件は区内のいたるところで発生しているため、どんなところで発生しているかよりも、その情報を把握し、各施設で共有することが重要だと思う。

部会長 関係者から地域での取り組み事例を紹介してもらおう。

関係者 子どもには家庭、学校、地域の三者が関わっているが、家庭と学校の連携は比較的取れているが、学校と地域は意外と取れていないので、まずその連携を密にすることが必要だと思う。

川中島中学校区では、10月に発生した女子中学生がハサミで切りつけられた事件を機に地域の小・中学校の先生と町内会の防犯、安全・安心などの担当で「子どもを守る学校・地域連絡会」を発足させ、緊急時の連絡網を整備した。実際、既にこの連絡網で不審者情報を伝え、対応した例もある。

この連絡会の本来的目的は子どもを守ることだが、地域の人気が気軽に学校に出入りできるようになり、学校と地域が頻繁に情報交換できるようになればよいと思う。

委員 連絡網で情報を受けた後、町内会はどのような対応をするのか。

関係者 各町内会の防犯担当者が現場にいち早く駆けつける。不審者を捕まるということではなく、状況を把握し、町内に周知する。そうすることで、地域、家庭、学校の連携ができる。

これまでは、川中島中学校区内であっても近隣校の事件の情報は相互に伝わっていませんでしたが、現在ではこの連絡網により伝わるようになった。

学校の先生には、通勤の際毎日同じ経路を通るのではなく、地域内で遠回りするなど地域を常に見て回って欲しいとお願いしている。

委員 話は戻ってしまうが、先ほど事務局が説明した地域緊急情報連絡網についてだが、事件が起こった学校が近隣校や地域の町内会に連絡するようにしてあるが、事件が起こった学校は事件への対応で忙しいだろうから、教育委員会の担当部署に一報を入れ、そこから近隣校や地域の町内会に連絡した方がよいのではないだろうか。

事務局 情報の伝達ルートは多いほうがよい。そのため、事件が起こった学校から近隣校や地域の町内会に連絡するとともに、教育委員会の担当部署にも一報を入れてもらい、そこからも連絡をしている。

関係者 学校が常に子どもを守る活動に取り組んでいる姿勢は立派である。しかし、どうしてもミスは起こる。藤崎小学校とわくわくプラザは同じ敷地内にあるが、それほど近接していても情報が伝わらないこともあるのが現実である。

部会長 以上で事例報告終了する。

これまでの事例報告も参考にして、発言をお願いしたい。

委員 入学直後の時期や交通安全週間などは地域の人がパトロールをしている姿を見かけるが、普段の日は見かけない場合がある。継続的に実施していく必要があるが、パトロールをする人もいろいろ忙しいと思うので、組織立てて対応しないと難しいだろう。

連絡網で情報を受けた場合、実際に誰が活動するのかという問題がある。下校時の見守りといっても、下校時間に5、6時間の差があるので、実際はかなりの手間がかかる。

子どもの安全・安心について、私案をまとめたので発表したい。（「児童にとって安心安全な環境づくりについて提案」を説明）

委員 区民会議の目的は活動する組織づくりではないと思う。まず、区民会議内で、子どもを取り巻く現状や解決すべき課題などの共通認識を確認すべきだと思う。

事件が起きたことを受け、連絡網や見守り組織をつくることだけではなく、どのような場所で事件が起こりやすいかや起こるおそれがあるのかを調べて改善していくことや、実際に不審者などに子どもが声を掛けられた時などに子どもがどのように対応すべきかなどの啓発が必要だと思う。

不審者などの情報を子どもに伝える場合、子どもが大人に不信感を持たないようにすることに気を使っている。

委員 区民会議は議論をするだけの場ではなく、課題を解決する場である。「かわさき子ども『夢と未来』プラン」にほとんどの課題が網羅されている。これらの課題に対し、行政と区民がそれぞれやるべきことを明確にし、区民がやるべきことに絞り、具体的取り組みを検討すべきだと思う。

委員 資料だけを見ても、区内にどんな課題があり、どんな取り組みが行われているのかはわかりづらい。安全・安心と言ってもいろいろな意味があり、例えば、安心して子どもを出産できる環境を整えることも重要だと思う。

課題を整理するために、専門家の指導の下でワークショップを実施したらどうか。

部会長 区内にはいろいろな課題があるが、第2回区民会議でまずは防犯という意味での安全・安心を中心に検討する方向性を確認したと思う。また、行政にお願いするところはお願するが、区民ができる取り組みを検討したい。

委員 課題やそれに対する取り組みをわかりやすくすることは重要だが、ワークショップは時間と手間がかかるので難しいと思う。

委員 私は簡単で身近な活動をしている。小学校で車椅子体験を実施することや一人暮らしの高齢者と給食を食べることなどを行っているが、日常的に多くの人が学校に行き、子どもと接している。

委員 地域の組織力、人的財産の活用が重要だと思う。高齢者などの比較的時間がある人が、例えば書道を教えに小学校に行くなど、学校に出入りするようになればよいと思う。地域全体や高齢者自身のためにもなると思う。

委員 実際に地域の人に活動してもらうのは難しいと思う。

委員 区民会議の委員には地域で役職に就いている人が多くいるので、全ての地域でなくとも実現可能だと思う。

委員 四谷地区では「四谷っ子守り隊」という組織があるが、組織はできたが実際にはあまり活動していない。

委員 ほとんどの地域が四谷地区と同じだろう。実施計画がしっかりしていないから、実際はほとんど活動していない。

部会長 どのような人たちに活動してもらうのが重要だと思う。どうすれば実際に地域の人が活動できるのかを部会で検討したい。

委員 これまでの議論をまとめると、子育て支援部会では小・中学校の児童と生徒の安全・安心を検討するということがよい。

部会長 子育ての課題はいろいろあるが、出産・病気、経済的支援などは行政に要請していき、地域でできることである安全・安心（防犯など）を検討する。現在の社会情勢を考えても、まず安全・安心の取り組みを検討すべきだと思う。

地域によって熱心に取り組んでいるところと、ほとんど取り組んでいないところもある。それぞれの地域ごとに特徴があるので、安全・安心の取り組みは地域ごとに異なるものになってよいと思う。

委員 出産・病気、経済的支援などは行政が取り組む課題ではあるが、区民会議には関係ないということではなく、要望していくことで課題解決に関わり、まずは安全・安心を中心に子育て支援を検討する。

部会長 例えば、保育園などでは保護者でなければ園児を引き渡さないなど、安全・安心を確保している場合があるが、小学校の登下校では保護者による子どもの迎えは難しいので、地域で見守ることが必要であることや、土・日における子どもの安全・安心を確保することがあまり取り組まれていないことなどいろいろな課題が考えられるが、まずは検討の方向性を決めたいと思う。

事務局 これまでの議論の中で子育てに関する幅広い意見が出揃ったが、その意見を幅広く議論していくのか、課題を絞って議論していくのかを決めて欲しい。

幹事会では、まずは安全・安心に絞って議論をし、ある程度方向性が決まれば他の課題を検討したらよいという意見にまとまった。他の課題は検討しないということではない。

安全・安心に絞った理由は、最近の社会情勢と課題解決に向けて区民が取り組みやすいと思われるからである。

委員 区民ができる範囲のことを検討し、できないことは区民会議として行政などに要望し、解決につなげていきたい。

川中島中学校区の事例を紹介してもらったが、他の地域でもいろいろな団体が活動していると思うので、それぞれの団体が協力したり、補い合ったりして取り組んでいくことも必要ではないかと感じた。

委員 わくわくプラザに来ている子どもたちが、5時、6時といった夕方の時間帯に一人で家に帰っている。親と一緒に帰ってくれる大人がいると安心である。

わくわくプラザによっては、4時くらいの暗くなる前の時間帯に帰らせているところもあるが、親は自分が帰宅するまでの2、3時間を子どもが家に一人である方が不安である。

防犯だけでなく、このような親の不安を取り除く課題も検討すべきだと思う。

委員 川中島中学校区のようにあれだけ地域が取り組んでいる事例は珍しい。家庭と学校の連携は取りやすいが、地域は接点がすくないので加わるのは難しい。

川中島中学校区は町内会の数が比較的少ないが、他の学校区は町内会の数が多かったり、地域で町内会の特徴が大きく異なっていたりと、一つにまとめることが難しい場合

がある。

部会長 子育て支援部会での検討の方向性を決めたい。

防犯についての安全・安心を中心に検討したいと思う。含まれる内容は、わかりやすいものでは学校と地域の連携を図ることがあるが、その他にもわくわくプラザからの子どもの帰宅時の大人の付き添い、土・日における子どもの安全・安心の確保も考えられる。

以上のことについて、異議ありませんか。

各委員 異議なし。

## (2) その他

委員 専門部会はもっと頻繁に開催した方がよいのではないだろうか。全員出席することにこだわらず、出席できる委員だけでも議論を進めていかなないとなかなかまとまらないし、まとまったとしても、時間がかかりすぎると時機を逸してしまうのではないだろうか。

部会長 第3回区民会議前にもう一度開催し、その結果を報告した方がよいのではないだろうか。

委員 第3回区民会議には、今回の議論の結果を報告すればよいのではないだろうか。第3回区民会議以後、具体的取り組みを検討する段階に入ってからの方が検討を重ねる必要があるので、頻繁に開催しなければならないと思う。

誰が実際に活動するのが一番の問題だと思う。

委員 民生委員、保護司など多種多様な人に活動してもらうことが、活動の幅を広げ、継続させるために必要だと思う。

## 5 事務連絡

事務局 (第2回区民会議会議録確認の依頼、第3回区民会議の開催を説明)

## 6 お礼

区長 専門部会は開催回数決めていないので、必要があれば事務局で調整をして開催する。

委員任期2年間で「区のイメージアップ」と「子育て支援」の2つのテーマだけを検討するわけではなく、解決の道筋が整えば他のテーマについて検討していくことにな

る。

子育て支援で特に安全・安心を取り上げたのは、昨今の社会情勢を考慮したことと地域の人の協力がないと難しいからである。